

2014年5月22日 発表予定

環境団体声明（辺野古・高江）合計5ページ

辺野古新基地および高江ヘリパッドの建設に強く抗議し 計画の撤回を求める環境団体の声明と要請 ～軍事基地建設ではなく世界自然遺産への登録を～

現在、名護市辺野古の新基地建設に関しては、沖縄県民の約80パーセントが反対しているにもかかわらず、県知事が県外移設の公約を破棄して埋立を承認し、業者の入札など沖縄防衛局による埋立工事の準備が進みつつあります。一方、東村高江では、住民、県民の強い反対運動を無視して森林破壊の米軍ヘリパッド建設が強行され、オスプレイも既存のヘリパッドで訓練を行うなど、辺野古、高江両地域ともに事態は切迫しています。

私たち環境・人権・平和に係わる71団体は、5月22日の国際生物多様性の日に環境団体声明（辺野古・高江）を発表し、地球規模でみて生物多様性の宝庫ある辺野古・大浦湾の海、高江のやんばるの森を破壊する軍事基地建設計画を中止することを、日本政府、アメリカ政府、沖縄県知事に要請します。

【要請の内容】

1. 日本政府とアメリカ政府に対して、
 - (1) 豊かな自然環境と生物多様性に悪影響をおよぼす辺野古における新基地計画、高江におけるオスプレイ用ヘリパッド建設を中止、撤回すること。
 - (2) 琉球列島の固有種・固有亜種の重要生息地である北部訓練場は部分返還ではなく全面返還すること、また、普天間飛行場も早急に返還すること。
2. 日本政府に対して、
 - (1) 辺野古・大浦湾・嘉陽の海域およびやんばるの森の自然環境の保全と持続可能な利用、地域住民の安全で安心な生活環境の確保を政策として実現すること。
 - (2) 「奄美・琉球」の世界自然遺産登録の申請には、辺野古・大浦湾・嘉陽の海域および北部訓練場全域のやんばるの森を含めること。
3. 沖縄県知事に対して、
 - (1) 辺野古の公有水面埋立承認を取り消すこと。
 - (2) 高江のオスプレイ用ヘリパッド建設を容認せず中止を求めること。

* この声明は、以下の院内集会で発表した後、総理大臣、米国大統領、沖縄県知事に送付します。

国際生物多様性の日（5月22日）院内集会・記者会見「日本列島の生物多様性をチェックする」

日時：5月22日（木）12時～13時45分（11時30分開場）

会場：衆議院第2議員会館 第5会議室（地下1階）

* 共同声明呼びかけ人（8団体）

花輪伸一（NPO 法人ラムサール・ネットワーク日本）、安部真理子（沖縄リーフチェック研究会）、三石朱美（国連生物多様性の10年市民ネットワーク）、蟻川義章（ジュゴン保護キャンペーンセンター）、真喜志好一（沖縄環境ネットワーク）、吉川秀樹（沖縄・生物多様性市民ネットワーク）、安次富浩（ヘリ基地反対協議会）、伊佐真次（ヘリパッドいらぬ住民の会）

* 賛同団体（上記を含め71団体）

（公財）世界自然保護基金ジャパン、（公財）日本自然保護協会、（公財）日本野鳥の会、（一般社団）グリーンピース・ジャパン、（一般社団）北海道自然保護協会、日本環境法律家連盟、日本森林生態系保護ネットワーク、沖縄ジュゴン環境アセスメント監視団、沖縄平和市民連絡会など、声明末尾に記載

* 問い合わせ先

NPO 法人ラムサール・ネットワーク日本

〒110-0016 東京都台東区台東1-12-11 青木ビル3F TEL/FAX:03-3834-6566

okinawa2014@ramnet-j.org <http://www.ramnet-j.org/okinawa2014/okinawa2014seimei.pdf>

担当者：花輪伸一（共同代表）090-2452-8555 hanawashinichi2@mbn.nifty.com